

自悠新聞

〒980-6101

仙台市青葉区中央1-3-1 アエル1階
発行所 丸善仙台出版サービスセンター

☎022-264-0151 fax022-264-0112

jk.ishimori@gmail.com 編集長 石森浩一

平成22年(2010年)12月 No.84

印刷 笹氣出版印刷(株)



第一回朗読サロン

朗読サロン 虹の街 第一回「風のうたがきこえる」を開催して

代表 菊田 郁朗

七月二十五日、定禅寺通り、メディアアターク隣にあるイタリア厨房ヴィアトリトーネにおいて、第一回の朗読サロンを開催しました。

七月二十五日、定禅寺通り、メディアアターク隣にあるイタリア厨房ヴィアトリトーネにおいて、第一回の朗読サロンを開催しました。《けやきの街に、朗読と音楽を奏でながら、ほつとくつろげる空間を。虹をかけるように、四季折々の出会いの喜び、生命(いのち)の輝きを伝えたい。》という趣旨のもとに詩人仲間三人でこの会を起しました。

常々《詩も音楽も絵も路上に街の中にある》、と思っっています。美術館や改まった音楽会に行かなくとも、街角のレストランから音楽や詩の朗読が流れ、道行く人が、足を止めて聴くことがあったら、こんなすばらしいことはない。そんなスポットを作りたかったのです。

朗読は不思議な力を持っています。それは今、テレビの画像で話題になっている3Dの世界であり、二次元から三次元への変換でもあります。テレビは画像ですが、朗読はイメージの世界を表現します。

今回朗読をしていただいた渡辺祥子さんは、十年ほど前から源氏物語に取り組んでおり、全国各地で朗読をしています。2008年、2010年には世界一周クルージングに乗船し、源氏物語を朗読、船上で日本文学研究者として名高いドナルド・キーン氏と対談しています。また、伴奏をいただいていたギタリストの佐藤正隆さんは、数々の国際コンクールで上位入賞、仙台に拠点を置きながら県外各地でソロリサイタルを開催、渡辺さんとはたびたび共演をしています。

果たして、渡辺さんに

朗読された十数篇の詩は、ギターの音色に乗って、時には風になり、時に雲になり、時には雨や雪になって夏の空にながれていくように思われました。第一部では『詩集風のうたがきこえる』から《夏》《祝婚歌》《ツーランドットの風》荒川静香さんへ《をテーマに、

第二部では発起人三人によるトークと自作詩の朗読。最後に小詩集『スケッチ オブ ポエム』から三篇を渡辺さんが朗読して幕を閉じました。

定員四十五人のところに希望者が多かったこともあり六十人が入られたのでやや窮屈ではありましたが、十分に朗読と音楽と詩の世界をお伝えすることができたのではないかと思います。

遠くは気仙沼本吉、栗原若柳、石巻から。また、戦後宮城の児童文化を育て、童謡詩人でもある富田博先生も御高齡を押して、さらに小生小学四年の担任のときの先生もご

出席いただき、感無量でありました。今後、この会を季節ごとに年四回開催し、若手朗読家や演奏家を育てる場に、また、小中学生や大学生による朗読会も考えています。

第二回は「万葉の恋歌」

吾恋ひめやも千年の時を越えて、今なお人々の心に響く短歌の世界を演出し、好評を博しました。そして第三回は「名曲にのせておくる近代詩のあけぼの」仙台ゆかりの詩人「晩翠と藤村」を館林敦士さんの朗読、仲沼祐太さんのピアノとヴァイオリンそして萩原里香さんのソプラノでおどけたいと思います。(詳細は裏面をご参照ください)

最後にこの会を支えていただいた、同人、賛同者、そして会場を快くご提供していただいた、ヴィアトリトーネの店長さん並びに従業員の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

一回言ってみて

こんな会話を交わしながら広瀬川沿いを散歩する。高齢親子がこうして元気に散歩できることに感謝しつつ、幼い日の母との語らいが蘇ってくる幸せに浸る毎日である。



M マルエム春秋

母と同居してから4ヶ月が過ぎた。母との朝の散歩は毎日欠かさない。私は父に似て歩くのが早い。なので母との散歩のときは多少早さを控えるが、母は難なくついてくる。

食欲も旺盛で、高血圧・糖尿病を持病にしている老人とは思えないほどである。八月、近くの蓮沼の満開の蓮の花に感激したり、十一月、どんぐりの実が茶色に変わるのに秋が深まるのを感じたり、季節の移ろいは私たちに色々語りかけてくる。普段無口の母も楽しくそうに私に話しかけてくれる。私も負けじと母に話しかける。「仙台の三大祭って知ってる? この間教えたよね」「青葉まつり、七夕祭り、うぐん、あと何だっけ」「光のページェントだよ」「あ、そうだったわね」「じゃ、もう一回言ってみて」

朗読サロン 虹の街

平成二十二年七月にスタートした朗読サロン虹の街、第三回は仙台にゆかりの深い晩翠と藤村を取り上げました。

明治四年仙台に生れた晩翠と明治五年長野県馬籠に生れた藤村が、仙台で出会ったのは明治二十九年のことでした。翌年藤村は『若菜集』を、二年後に晩翠は『天地有情』を出版し、『晩翠・藤村時代』と呼ばれる近代詩史の一時代を築いたので

す。二人の詩の特徴は、これまで和歌や漢詩を基調としながら、西洋の自然主義の詩は青春の抒情性や質実剛健・悲壯感を謳い、当時の青年達の多感な心情をとらえていたのです。

今回の朗読サロンは、在仙で活躍中の俳優・館林敦士による朗読。新春のステージに花を添えるのは、二十代の二人。宮城教育大学大学院生の仲沼祐太によるピアノとヴァイオリン、新進のソプラノ歌手・萩原里香を起用。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

第3回 朗読サロン 虹の街

名曲にのせておくる 近代詩のあけぼの ～仙台ゆかりの詩人 晩翠と藤村～

- *日時 平成23年(2011)1月30日(日) 14時～15時45分
- *会場 エルパーク6階 スタジオホール
- *開場 13時30分～
- *会費 一般 1,500円 大学生 1,000円 中高校生 500円
- *主催 朗読サロン 虹の街
- *助成 仙台市市民文化事業団
- *後援 仙台市教育委員会



～出演～

朗読 館林 敦士 (俳優)
 演奏 仲沼 祐太 (ピアノ&ヴァイオリン)
 歌 萩原 里香 (ソプラノ)
 構成 菊田 郁朗



お申し込みは事務局まで
 電話 090-7663-4102
 FAX 022-379-3994
 Mail roudokusalon@yahoo.co.jp

丸善仙台アエル店 丸善の自費出版

あなたの本を創ってみませんか！

丸善は書店としての経験をいかして自費出版本制作のお手伝いをさせていただきます。お気軽にご相談下さい。随時承っております。

☎022-264-0151 携帯 090-5184-0532 (石森)



営業時間
10:00～21:00

日曜祝日は 20:00 迄

担当：
自費出版アドバイザー
認定第0014号
石森浩一

